

定理1.5の補足

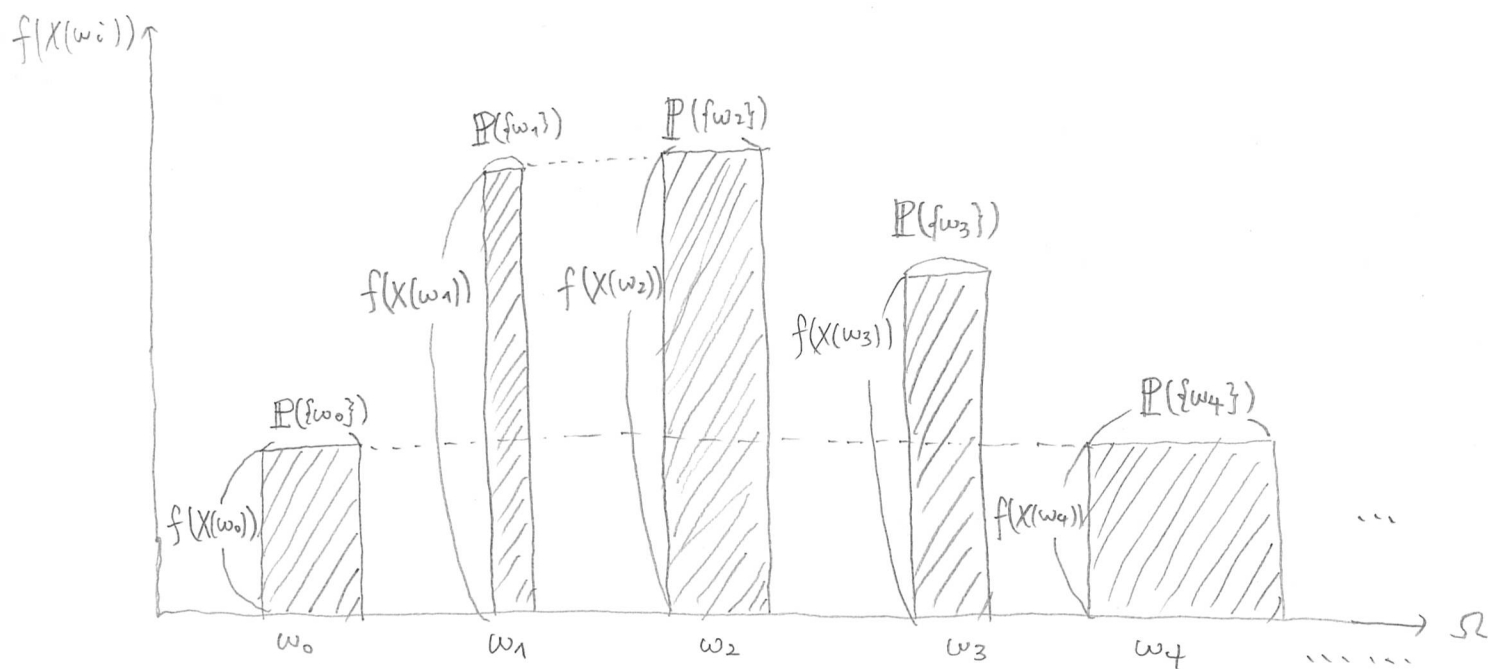
$$\text{等式 } \sum_{\omega \in \Omega} f(X(\omega)) P(\{\omega\}) = \sum_{x \in X(\Omega)} f(x) \sum_{\omega \in X^{-1}(\{x\})} P(\{\omega\}) \quad \dots (1)$$

について補足する。説明のため、 Ω は可算無限であるとし、 Ω を

$\Omega = \{\omega_0, \omega_1, \omega_2, \dots\}$ と列挙しておく。 $X(\Omega) = X(\Omega) = \{x_0, x_1, \dots\}$ と列挙する。

(1)の左辺は、高さが $f(X(\omega_i))$ 、幅が $P(\{\omega_i\})$ であるような長方形の

面積の総和として図示できる：

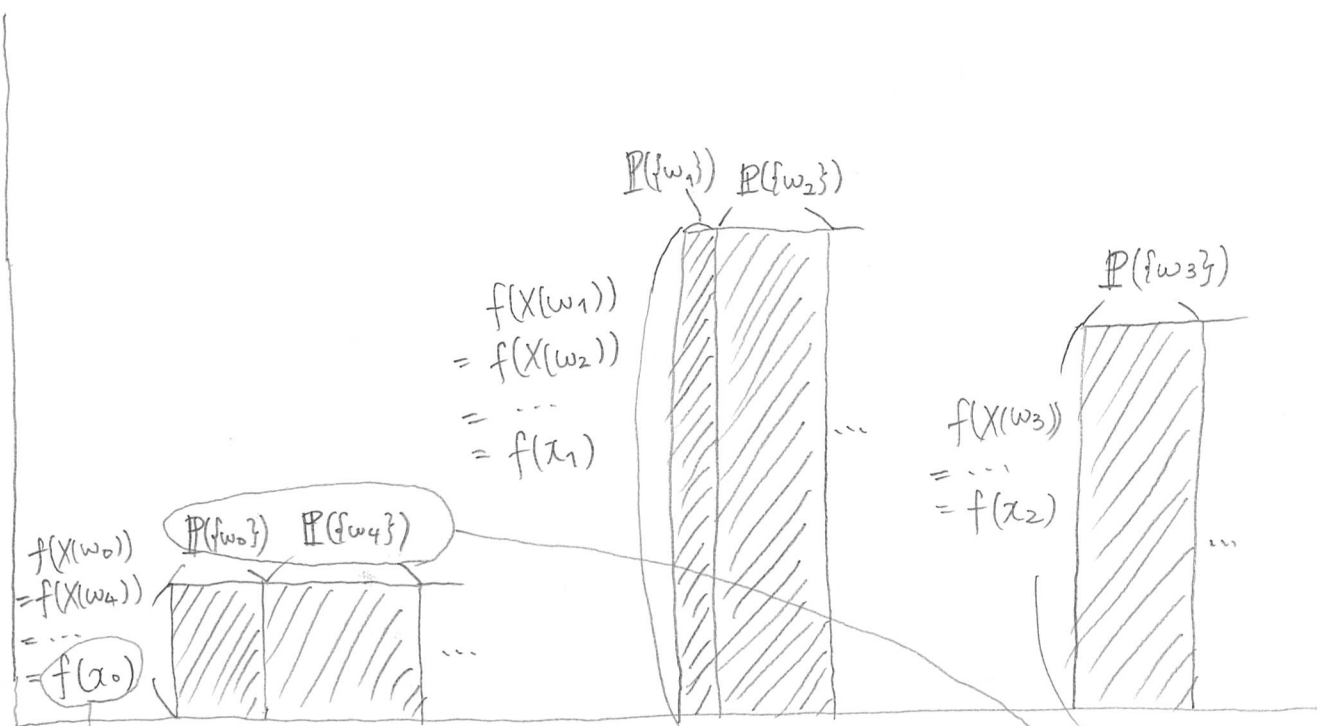


ここで、 Ω を“ X による行先が同じ”という関係で類別する。

例えば、 $\underbrace{X(\omega_0) = X(\omega_4) = \dots}_{x_0}, \quad \underbrace{X(\omega_1) = X(\omega_2) = \dots}_{x_1}, \quad \underbrace{X(\omega_3) = \dots}_{x_2}$

となっていたとして、 $\Omega = \{\omega_0, \omega_4, \dots\} \sqcup \{\omega_1, \omega_2, \dots\} \sqcup \{\omega_3, \dots\} \sqcup \dots$

と分割する。この分割にしたがって、長方形たちを下記のようにならべる：



このとき、斜線部の面積の総和は、高さ $f(x_j)$ 、幅 $\sum_{\omega \in X^{-1}(f(x_j))} P(\{\omega\})$

を j で和をとったものなので、 $\sum_{x \in X(\Omega)} f(x) \sum_{\omega \in X^{-1}(f(x))} P(\{\omega\})$ と表せる。

以上が感覚的な説明。4章で連続な標本空間でも確率密度関数に対して期待値を考えるが、その時はルベグ積分を使う。その理解に上のような感覚的な説明が役に立つかもしれない。

次に厳密な説明。 X は Ω から $X(\Omega)$ への全射なので、

$$\Omega \text{ は } \Omega = \bigsqcup_{x \in X(\Omega)} \underbrace{X^{-1}(\{x\})}_{\Omega_x} \text{ と分割できる。したがって、}$$

$$\sum_{\omega \in \Omega} f(X(\omega)) P(\{\omega\})$$

$$= \sum_{x \in X(\Omega)} \left(\sum_{\omega \in \Omega_x} f(X(\omega)) P(\{\omega\}) \right) \quad \dots (2)$$

つまり、 $\omega \in \Omega_x$ ならば $f(X(\omega)) = f(x)$ となり ω に依らず $f(x)$ である。
 \parallel
 $X^{-1}(\{x\})$

$$(2) = \sum_{x \in X(\Omega)} f(x) \sum_{\omega \in \Omega_x} P(\{\omega\}) \quad \text{つまり、(1) が示せた。 終り。}$$

\parallel
 $X^{-1}(\{x\})$

